

県内就職率の向上に向けて

桜の季節を迎え、来月から社会に新たな一歩を踏み出す人も多いだろう。三重労働局によると、2025年3月に県内の大学を卒業した大学生の就職率は96.4%となり、高い水準を維持している。昨今の人手不足を背景に、2026年3月卒業者の就職率も高水準が見込まれる。

一方で、県内大学の県内就職率を見てみると25年3月は44.3%にとどまっており、17年3月以降は22年と23年を除き、約45%で推移している。県内で最も学生が多い三重大では、県外出身者が5割以上を占めることなどの背景もあるが、三重県にゆかりを持つ若者の県外転出が加速することは県内の働き手が減少することになり、地域経済の停滞、活力の低下につながる。

三重県では県内就職を促進するため、さまざまな取り組みを実施している。県内での居住かつ就業などを条件に、大学等の奨学金返還額の一部助成や「みえの企業まるわかりNAV I」などでの県内企業の情報発信、就活セミナーの開催などが挙げられる。

県外の取り組みをみると、佐賀県では、100社以上の企業が出展する「サガシル」を開催している。企業説明会にとどまらず、学生が企業と対等に対話できる交流会であることが特徴で、学生と社員のトークセッションや学生のやりたいことと企業の取り組みたいことをマッチングするプロジェクトなどが企画されている。

また、島根県では「服装自由」や「社長がナイスキャラ」などの特徴を表すキーワードで自分にあった検索ができる機能や、社員が働く姿を中心としたオンライン会社見学ができる機能がある企業検索サイトが公開されている。

いずれも、学生にとってハードルが低く、かつ県内企業を一步踏み込んで知ることができることが特徴だ。県内就職率をあげるためには、まず県内企業に関心を持ち、知ってもらうことから始まる。三重県内にもすばらしい企業が数多くある。企業の魅力を分かりやすい形で伝える工夫が求められている。

(地域共創事業部 受託・調査グループ 主任研究員 山崎 美幸)